

## 第33回「みんなの健康展」を開催

平成28年9月10日(土)、11日(日)にかけて、吹田市文化会館(メイシアター)にて、「第33回 みんなの健康展」が開催されました。

今年は「広げよう健康づくりで笑顔の輪」をメインテーマに、関係団体により展示、相談コーナー、イベント広場での演劇や体操、映画会などが行われました。好天にも恵まれ約2,500人の来場者を迎え、大きな事故もなく無事終了しました。

医師会では、血圧測定等と医師による健康相談コーナーを設け市民の方々から相談を受けることといたしました。両日で6名の会員の先生方にご協力いただき、親切な説明に満足され帰られる時の笑顔が印象的でした。医師会の活動の一環として市民へのアピールにも充分に役だったものと考えております。

今回も、会員、事務局、阪大看護学生など多数の方々にご参加、ご協力をいただくことができました。医師会は、「みんなの健康展」の様な公益活動が必須です。紙面を借りましてお礼を申し上げるとともに、今後もぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。(健康づくり担当理事 相馬)



第33回 みんなの健康展

記念講演会

### シニア世代のための 循環器病の予防と治療

国立循環器病研究センター 理事長 小川 久雄 先生



立循環器病研究センター・理事長・小川久雄先生をお招きして「シニア世代のための循環器病の予防と治療」というタイトルでご講演いただきました。まず、アナウンサーの方より講師の紹介があり会は始まりました。

小川久雄先生は昭和28年生まれ、奇しくも私(新居延)、林佳代理事と同じ徳島県は阿南市のご出身である。昭和53年熊本大学医学部をご卒業、平成12年循環器内科教授になられた。昭和56年からの3年間は国立循環器病研究センターのレジデントとして研鑽を積まれた。平成23年より同病院の副院長、平成28年より現職である国立循環器病研究センター・理事長に就任されている。ご専門は冠動脈疾患の病態と治療で数多くの素晴らしい研究と受賞がある著名な先生である。

まず動脈硬化は全身の疾患という観点より、その進み方、その先にある脳卒中、狭心症、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症の病態・治療について分かりやすく解説された。特に検査では、最近普及しつつある、血圧脈波検査の重要性について言及された。ABI検査とPWV検査は、手と足の血圧の比較や脈波の伝わり方を調べるこ

とで、動脈硬化の程度を数値として表したものである。この検査を行うことにより動脈硬化(血管の老化など)の程度や早期血管障害を検出することができる。今回の健康展でも臨床検査科が行っている「血管年齢」のコーナーでは長い行列ができた。市民の動脈硬化に対する関心度の高さが伺えた。

血管の老化現象である動脈硬化の危険因子は、高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、ストレスなどが挙げられる。生活習慣を改善できれば、血管年齢を若返らせることは十分可能となる。すでに動脈硬化が進行しているシニア世代でも生活習慣の改善によって、心筋梗塞や脳梗塞の発症を防ぐことができることを強調された。不整脈で脳梗塞になる心房細動についてもスライドを用いてわかりやすく解説された。

国立循環器病研究センターは、脳、心血管疾患の予防と治療に挑むナショナルセンターとして平成30年に生まれ変わる。国循を中心とした国際級の医療クラスターの実現に向けて市立吹田市民病院とともに現在準備中であり、小川先生も忙しい毎日を過ごされている。

会場からの質問にも笑顔で対応され大変有意義な講演会であった。参加人数も222人と例年に比べ多く記念講演会は成功裏に終了した。

(健康展実行委員長 新居延)